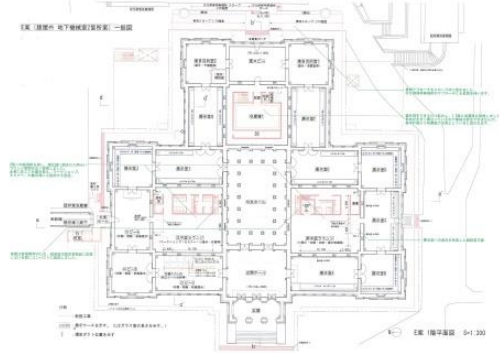
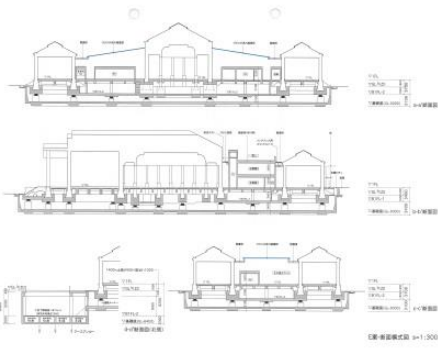



大項目	I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。 (東京国立博物館) 1) 本館については収蔵・展示施設の改修と拡充に関する基本計画を策定する。								
担当部課	環境整備課	事業責任者	課長 若林 賢一					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 建物の長寿命化を見据えて館内設備機器(建物附属)の現状の調査、検証を28年度より着手しており、平成29年度末を目途に完了し、メンテナンスサイクルを始動するに必要な更新費用の予算要求を随時行う一方で、より緊急度の高い機器更新について館内予算の手当により実施を予定している。 (東京国立博物館) 2) 本館収蔵環境改善のための仮設収蔵庫の建設、本館改修(東京五輪対応)整備について本館保存活用計画の策定作業を進めながら予算規模に応じて実施する本館リニューアル計画について環境整備委員会の審議を経て館内合意された。また、今後将来に渡っての予算措置状況とメンテナンスサイクルの進捗に合致した整備計画を策定する必要がある。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体的な作業を進捗させたため、A判定とした。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (東京国立博物館) 開館後約80年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019年 ICOM 京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 各館、各所でのメンテナンスサイクルの構築へ向けた取り組みを着実に実施しているが、実際のメンテナンスサイクル始動のためには、内部予算での必要最低限度の整備と施設整備補助金による段階的な更新整備の持続が必要不可欠であり、そのための推進体制の整備や予算要求の仕組み等の課題に対して取り組めておらず、中期で診た場合にはB判定としている。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備								
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。 (京都国立博物館) 1) 仮設収蔵庫（東収蔵庫）の減築工事を行う。 2) 明治古都館（本館）の免震補強他の改修に向けた準備として、引き続き基本計画の策定を行う。									
担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 植田義雄						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 建築附帯設備（電気設備、機械設備等）の保全計画を策定、随時更新を行った。 (京都国立博物館) 1) 仮設収蔵庫（東収蔵庫）の減築工事施工中。 2) 明治古都館（本館）基本計画策定済。(29年2月) 中庭に新棟と屋根を建設し、建物全体を免震構造とすること、創建当時の姿を適切に保持することなどを基本計画に盛り込んだ。									
【補足事項】									
 <p>本館基本計画案 平面図</p>				 <p>本館基本計画案 断面図</p>					
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
		-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 東収蔵庫減築工事により各種控室対応を行う準備工事及び棚の再利用も含めた棚解体を実施した。撤去、内装等の工事を継続して29年度に行う。 明治古都館（本館）基本計画は引き続き審議を行う。							
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (京都国立博物館) 京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルの構築に向け、設備の老朽状態を把握し、電気設備及び機械設備の保全計画の策定を行った。 京都国立博物館（明治古都館）の改修について、重要文化財である建築物としての保存、展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備基本計画の策定を行った。							

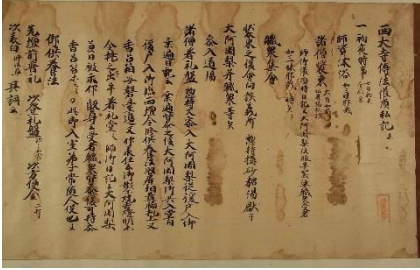
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。 (奈良国立博物館) 1) 構内バリアフリー及びエントランス拡張整備に向けた検討を行う。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 室溪 浩					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・各種設備の劣化状況調査及び更新計画を実施した。 ・なら仏像館展示室改修を実施した。 ・熱源設備の更新を実施した。 (奈良国立博物館) 1) 構内バリアフリー及びエントランス拡張整備計画の検討を行った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ・各種設備について現状調査や、メーカーへのヒアリングや資料徴収を行い、更新計画表の作成を進めた。 ・なら仏像館展示室改修に伴い全ての照明をLED化した。展示品に対し悪影響の少ない照明とすると共に省エネルギー効果が期待できる。 ・熱源の一つである吸収式冷温水機を1台更新した。機器の運転効率が向上し省エネルギー効果が期待できる。 (奈良国立博物館) 1) エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行うとともに、屋外舗装に使用しているピッコロ石の凹凸解消に向け、研磨処理試験施工を行った。								
								
更新した吸収式冷温水機								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 現状調査並びにメーカーへのヒアリングや資料徴収により、更新計画表の土台づくりができた。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (奈良国立博物館) 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 今期中期計画の初年度として、メンテナンスサイクルの確立に向け、更新計画の作成に着手できた。29年度では各種設備の調査等を細部まで進め全体的なブラッシュアップを図る必要がある。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備								
<p>【年度計画】 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 開館から10年が経過し、監視カメラ等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修及び拡充を行う。</p>									
担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課			事業責任者	課長 富坂 賢 課長兼文化交流展室長 河野一隆 課長 菅原秀倫 課長 古川晶一				
<p>【実績・成果】 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行った。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 監視カメラについて、特別展の開催していない時期に、展示室、エントランスを中心に監視カメラ設備をアナログ仕様からデジタル仕様に更新した。長期修繕計画の検討委員会を立ち上げ、10年整備計画を策定するとともに、30年以降の詳細な実施計画の検討を行った。</p>									
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像・音響設備の老朽化のため、6面マルチスクリーンの第7室を通常の展示室に改造した。中央にあった「柱立て祭り」の造作を撤去し、単体ケースを配列して作品展示のできる空間とした。部屋名は、「アジアを旅する」とした。 ・当館では、展示に使用する各種の台（「展示台」）を管理するためのシステムを導入している。しかし、制御するOSが対応しなくなったため、システムそのものを書き換えた。その結果、読み取り速度や作業の安全性が向上し、展示運営に不可欠な台の管理コストが大幅に軽減された。とくに、展示完了後に作品に触れることなく展示台登録ができるようになったことは、大きな前進である。 									
									
				第7室（改造後）			展示台システム更新		
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
	-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		監視カメラの交換等を行い、長期保守計画を見据えた将来への投資を行うことができた。また収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けて検討を行い、10年修繕計画を策定した。							
【中期計画記載事項】									
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (九州国立博物館)									
開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		監視カメラの交換等を行った。また、開館から10年が経過したこともあり、施設整備の必要性が増したため、メンテナンスサイクルの検討を行い、10年整備計画を策定した。中期目標の達成にむかって順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集							
【年度計画】 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 救仁郷秀明					
【実績・成果】 ・購入件数 11件 内訳：絵画 1件、書跡 2件、東洋書跡 1件、東洋陶磁 1件、東洋染織 6件 ・決算額 662,350,000円 28年度は、絵画1件 重要文化財「准胝仏母像」、書跡2件 重要文化財「書状」、「無量義経十功德品第三断簡（愛知切）」東洋書跡1件「行書陶淵明婦去来図画賛軸」、東洋陶磁1件「青花雲龍文方壺」、東洋染織6件「白木綿地立涌メダイヨン文様更紗（鬼手）」「白木綿地花唐草シヴァ神文様更紗」「白木綿地火焰菱鋸歯文様更紗」「白木綿地菱メダイヨン花唐草ペイズリー文様更紗」「ヨーロッパ更紗夜具 緑木綿地花文様（蠟引更紗）」「サロン白木綿地スエズ運河オランダ海軍船文様パティック」の計11件を購入した。								
【補足事項】 ・重要文化財「准胝仏母像」は、彩色画として2点しか知られていない12世紀の准胝仏母像の一つであり、最も院政期の仏画らしい優美さを示す優品である。 ・重要文化財「書状」は、和様の書を大成した藤原行成筆の唯一現存する書状である。当館所蔵の国宝「白氏詩巻」（B-2533）と本書状を合わせ、書を研究する上で最も重要な作品といえる。書としても歴史資料としても、当館の特別展や総合文化展で大いに活用できるものである。 ・「青花雲龍文方壺」は景德鎮窯の青花磁器であるが、皇帝のみに許された五爪の龍を配したものは大変貴重であり、展示や研究に活用できる。 ・インド等更紗は、大判で展示映えするだけでなく、大変状態の良い作品であるため、状態のあまり良くない当館収蔵品の代わりに展示に活用することができる。								
								
[購入品] 重要文化財 書状 藤原行成筆								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	24	25	26	27
収蔵品件数	117,190件	-	-		114,362	115,653	116,268	116,932
うち国宝	88件	-	-		87	87	87	87
うち重要文化財	636件	-	-		631	633	634	634
収集件数	199件	-	-		465	1,291	615	664
うち購入件数	11件	-	-		5	5	9	16
うち寄贈件数	44件	-	-		63	471	100	148
うち編入件数	144件	-	-		397	815	5069	500
文化財購入費	662,350千円	-	-		106,050	123,950	139,686	225,880
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 28年度はまとまった購入予算を確保することができたため、重要文化財「書状 藤原行成筆」など2件を含め、当館の展示・研究に活用できる、高水準の作品を購入することができた。							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 時代・地域・分野に偏りなく、「青花雲龍文方壺」やインド等更紗など日本を中心に広くアジア諸地域等にわたる作品を収集し、中期計画の初年度として順調な成果を上げることができた。次年度も引き続き情報収集等に努め、効果的な収集を図る。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集							
【年度計画】 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】 ・購入件数14件 内訳：絵画3件、書跡1件、彫刻1件、金工1件、陶磁3件、漆工1件、染織2件、歴史2件 ・決算額 130,088,000円 28年度は、絵画3件「蝦蟇河豚相撲図 伊藤若冲筆 1幅」「耕作図屏風 狩野永良筆 6曲1隻」「墨花争奇図巻 大岡春卜筆 2巻」、書跡1件「賀茂御祖神社関係文書 5巻」、彫刻1件「行道面 菩薩 1面」、金工1件「重要文化財 金熨斗刻鞘大小拵 1腰」、陶磁3件「色絵松梅文徳利 1口」「五彩花鳥文魁文字鉢 1口」「五彩印判手楼閣山水文大皿 1対」、漆工1件「水葵蒔絵螺鈿菓子箆筒」、染織2件「有職雛 直衣姿 1対」「雛道具 貝桶・合貝 1対」、歴史2件「甲寅記事画卷 平山省齋題 1巻」「異国船図巻 1巻」を購入した。								
【補足事項】 ・絵画購入品の「蝦蟇河豚相撲図 伊藤若冲筆 1幅」は、特集陳列「生誕300年 伊藤若冲」において展示に活用できた。 ・金工購入品の「重要文化財 金熨斗刻鞘大小拵 1腰」については、重要文化財に指定された大小拵は本件を含めて4件しかなく、その存在は極めて貴重である。また当館は大小拵を1件も収蔵していないため、本件の収蔵により、当館の刀剣・刀装具のコレクション、およびその展示活用・研究の一層の充実が強く期待される。 ・歴史購入品の「甲寅記事画卷 平山省齋題 1巻」は特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」にて展示された作品である。								
購入品「蝦蟇河豚相撲図 伊藤若冲筆」								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	24	25	26	27
収蔵品件数	7794件	-	-		6,708	6,721	7,109	7,532
うち国宝	28件	-	-		27	27	27	28
うち重要文化財	198件	-	-		179	179	180	183
収集件数	265件	-	-		87	13	388	423
うち購入件数	14件	-	-		1	0	9	18
うち寄贈件数	251件	-	-		86	13	379	405
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費	130,088千円	-	-		22,000	0	227,452	797,790
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「重要文化財 金熨斗刻鞘大小拵 1腰」を含む、当館の展示・研究に寄与する作品14件購入することができた。							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 28年度は、京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等について順調に購入し、展示・研究に役立てることができた。 今後も展示・研究に寄与する作品の購入を順次行っていく予定である。							




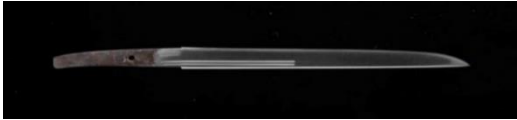
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集							
【年度計画】 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、工芸品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤 栄					
【実績・成果】 28年度に購入した文化財は以下の2件である。 ・西大寺伝法灌頂私記 末 1巻 ・般若心経および維摩経問答（法隆寺伝来） 1巻								
【補足事項】 購入品のうち西大寺伝法灌頂私記末1巻は、紙本墨書、卷子装で、鎌倉時代末に作成された写本。書かれている内容は、西大寺を中興した興正菩薩叡尊が、正嘉2年（1258）3月に弟子の総持と栄真に伝法灌頂を受けた際の儀式次第で、叡尊の周辺にいた別の僧侶が、2年ほど後の正元2年（1260）に現在の形にまとめた。伝法灌頂は、密教における秘儀であることもあり、その詳細を伝える資料はあまり多く残されていない。しかも残っている資料は江戸時代以降の新しい写本が大半で、本品のように14世紀まで遡る写本はきわめて貴重なものと言える。								
								
〈写真〉西大寺伝法灌頂私記 末（巻末）								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
収蔵品件数	1,886 件	-	-		1,834	1,862	1,877	1,883
うち国宝	13 件	-	-		13	13	13	13
うち重要文化財	112 件	-	-		111	111	111	112
収集件数	3 件	-	-		3	28	15	6
うち購入件数	2 件	-	-		2	3	15	4
うち寄贈件数	1 件	-	-		1	25	0	2
うち編入件数	0 件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費	5,040 千円	-	-	27,300	40,350	261,960	140,400	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術に重点をおいた適時な収集を実施できた。件数では、過去2ヶ年度より少ないものの24・25年度とは同程度であり、予算に応じた適切な収集と判断される。本年度は年度計画に挙げた分野のうち書跡のみの文化財購入となったが、次年度以降は多分野での収集に取り組む。							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術を中心とした文化財を収集することができている。次年度は予算の増額が予定され、本年度より多くの品を収集できる見込みである。中期計画の期間全体でバランスのとれた収集となるよう、購入候補品を選定していく。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集							
【年度計画】 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 富坂 賢					
【実績・成果】 ・購入件数36件 内訳：絵画9件、書跡2件、陶磁3件、漆工1件、染織2件、考古4件、歴史資料15件 ・決算額640,412,000円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集した。作品として「泰西風俗図屏風」「花鳥図(ビオンボ)」、「青花吹墨玉兔文皿」「緑地山道文金更紗茶具敷」など優れた文化財を、あわせて36件購入した。								
【補足事項】 ・絵画分野では9件を購入した。「泰西風俗図屏風」は描写の丁寧さから高い評価を受けている南蛮美術の大作、「老人読書図」は筆者が特定できる類まれな作例で、いずれも初期洋風画を代表する作品である。 ・書跡分野では2件を購入した。「継色紙」は散らし書きの妙が特筆される著名な古筆切。重要文化財の本作品「われみても」は料紙が3頁に及び、後水尾院が紀貫之筆と鑑定したことが箱内の資料から判明する出色の作例である。 ・陶磁分野では3件を購入した。日本向けに景德鎮窯で製作された古染付「青花吹墨玉兔文皿」、鍋島焼隆盛期の作例で5枚1組という希少な「色絵紅葉流水文皿」など、日本における陶磁製作の代表地である九州にふさわしい作品を購入した。 ・染織分野では2件を購入した。「緑地山道文金更紗茶具敷」は当館が積極的に収集している更紗の優品で、茶具敷に転用された。「人物・動物文更紗祭礼布」はインド更紗の大作で、南インドの宮廷生活を描く希少な作例である。 ・考古分野では4件を購入した。「壺形土器」は縄文土器編年の基準である十腰内I式土器の中での優品で彩色の残りもよい。また「注口土器」も縄文土器基準作である新地式の完形品として貴重である。 ・歴史資料分野では15件を購入した。古典籍・古文書、絵図・地図、洋書などバランスよく購入した。このうちリンデン伯「日本の思い出」は幕末の長崎市街の様子を色彩豊かに描いた大判の石版画で、原装をとどめている点でも貴重である。 ・いずれも、日本と大陸の文化交流を物語る作例、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。 ・収蔵品のうち「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」「絹本著色仏涅槃図 命尊筆」の2件が重要文化財に指定された。								
【定量的評価】								
項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
収蔵品件数	583件	-	-	経年変化	474	493	512	525
うち国宝	3件	-	-		3	3	3	3
うち重要文化財	37件	-	-		29	29	29	34
収集件数	58件	-	-		21	19	19	13
うち購入件数	36件	-	-		18	15	14	5
うち寄贈件数	22件	-	-		3	4	5	8
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費	640,412千円	-	-		718,835	727,528	727,228	609,288
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 「継色紙(われみても)」など国立博物館として収集すべき作品と、「泰西風俗図屏風」「老人読書図」「花鳥図巻」など文化交流を端的に示す作品とを、バランスよく収集した。所蔵者との信頼関係に支えられ、例年以上に購入件数が増加した。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化交流を端的に示す作品を、バランスよく収集した。						


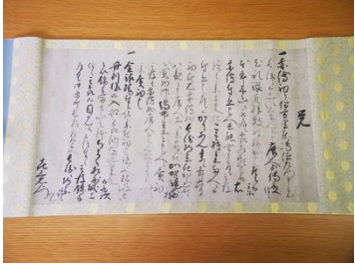


泰西風俗図屏風

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 救仁郷秀明					
【実績・成果】 1)○寄贈 ・新規寄贈品件数 44件 内訳：絵画 3件、書跡 6件、考古 3件、歴史資料 1件、東洋絵画 4件、東洋民族 27件 ○寄託 ・新規寄託品件数 37件 内訳：絵画 3件、書跡 2件、彫刻 1件、刀剣 19件、陶磁 1件、染織 1件、東洋絵画 1件、東洋陶磁 9件 ・寄託品は新規に37件を受け入れ、返却34件のうち2件の寄贈を受入れ、4件を登録美術品3件として受け入れた。								
【補足事項】 ○寄贈 ・作品の寄贈については15名の所蔵者から、44件の文化財を受け入れた。 ・「玄奘三蔵像」は、現存作例のみでなく図像などでも類例のほとんどないこの種の画像の受容を考える上で、貴重な作例である。 ・インドネシアの伝統芸能としてユネスコの無形文化遺産としても登録されている影絵芝居の人形、「ワヤン・クリ」のまとまったコレクションの寄贈を受けた。「ワヤン・クリ」は22年にも寄贈を受けており、近年飛躍的に充実が進んでいる。 ・制作当初のタンカの形態をそのままうかがうことができ、制作年代が遡るチベットタンカの完好な遺例を含む、希少性の高いチベット仏教絵画の寄贈を受けた。当館収蔵品の欠落を埋め、さらに充実させることができた。 ・インド細密画(一括89件)は、多岐にわたる内容を持ち、また取得地域・年代も明らかことから、まとまったコレクションとして貴重であり、当館におけるインド細密画の展示を充実させることができた。 ○寄託 ・作品の寄託については1機関4個人から、37件の文化財を新規に受け入れた。 ・寄託品のうち、重要文化財は「鶴飼図屏風」など絵画1件、書跡1件、東洋陶磁1件である。								
								
[寄贈品] 玄奘三蔵像 1幅								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
新規寄贈品件数	44件	-	-	変化	63	471	100	148
寄託品件数	3,075件	-	-		2,563	2,519	3,064	3,072
うち新規寄託品件数	37件	-	-		3	20	604	31
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規寄託の重要文化財3件を含め、寄贈、寄託ともに、東洋民族・東洋絵画分野において収蔵品の不足部分を補う質の高い内容となった。また、寄託品件数も順調に推移している。							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき寄贈・寄託品の受け入れをバランスよく行い、寄託品の件数を維持するなど、順調に成果をあげている。今後も外部の個人コレクターや社寺等との信頼関係を維持・拡大し、寄贈・寄託の推進に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】								
○寄贈 新規寄贈品件数 251件 内訳：絵画「花鳥図屏風」等 23件、書跡35件、彫刻「神像」等 2件、金工29件、陶磁142件、漆工7件、染織「雑道具」等 8件、歴史資料5件、								
○寄託 新規寄託品件数 227件 内訳：絵画「垣豆群蟲図 伊藤若冲筆」等 76件、書跡14件、彫刻「銅造神将形立像」等 6件、金工12件、陶磁89件、漆工18件、染織2件、考古5件、歴史資料「幕末明治期瓦版錦絵類」等 5件								
【補足事項】								
○寄贈 ・寄贈は251件で、寄贈者は18名である。 ・寄贈品のうち、絵画2件、書跡1件、彫刻1件、陶磁142件、漆工7件、染織3件、歴史資料4件については、大阪府貝塚市で江戸時代から続いた商家から、27年度に引き続き寄贈されたものである。29年度には、これまでの受贈作品を一同に展示する特別企画を平成知新館において開催する予定である。 ・金工29件のうち20件は、大阪府の愛刀家蒐集一族からの寄贈で、「重要文化財 短刀 銘吉光（名物秋田藤四郎）1口」、「重要文化財 短刀 銘相州住秋広／永和二 1口」、「重要文化財 短刀 銘左／筑州住 1口」といずれも貴重な作品を含んでいる。29年度には、同愛刀家が蒐集した名刀の数々を一同に展示する特集展示を平成知新館において開催予定である。								
								
寄贈品「重要文化財 短刀 銘吉光（名物秋田藤四郎）1口」								
○寄託 新規寄託のうち指定品は、「重要文化財 仏涅槃図 1幅」、「重要文化財 普応国師像 1幅」である。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
新規寄贈品件数	251件	-	-		86	13	379	405
寄託品件数	6,189件	-	-		5,914	5,892	6,001	6,112
うち新規寄託品件数	227件	-	-		73	70	162	232
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 重要文化財3件を含む当館の平常展示に寄与する作品、寄贈251件、寄託227件を受け入れることが出来た。また、寄贈作品のうち歴史資料1件と、寄託作品のうち歴史資料5件は、特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」にて展示した。							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間初年度において寄贈、寄託の受入を積極的に行い、収蔵品を順調に充実させることができた。 既存の寄託品についても積極的に展示し活用することができた。28年度は、29年度以降の展示計画において有用な作品を受け入れることができ、今後の展示の充実が一層期待できる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤 栄					
【実績・成果】								
・寄贈 本年度に寄贈を受けた文化財は下記の1件であった。 絹本著色仏涅槃図 一幅								
・寄託 新規に寄託を受け入れた文化財は34件であった。主な寄託品は以下の通りである。 重要文化財 絹本著色八字文殊菩薩像及八大童子 善財童子像 一幅 個人 笙 頼尊作 一管 談山神社 無本覚心墨跡 偈頌 一幅 興国寺 絹本著色春日赤童子像 一幅 個人 銅造仏手 一個 新薬師寺								
【補足事項】								
・寄贈を受けた「絹本著色仏涅槃図」は、南北朝時代に描かれたもの。奈良県斑鳩町高安の高安村涅槃講に伝来した。高安の地では、涅槃会が江戸時代から継続して毎年執行され、本品はその本尊画像として伝えられてきた。このたび涅槃講が解散するにあたり当館への寄贈の申し出があり、仏教絵画としても優れ、また在地での祭礼行事の実相を示す史料としても価値が高く、寄贈を受け入れることとなった。								
								
寄託鑑査風景								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
新規寄贈品件数	1件	-	-		1	25	0	2
寄託品件数	1,958件	-	-		1,951	1,994	1,984	1,956
うち新規寄託品件数	37件	-	-		13	49	7	7
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規寄託の受け入れについては、26年度・27年度と比較して、大幅に件数を増やすことができ、実績を上げることができた。また、寄託を受けた文化財を28年度の特別展で早速展示するなど、活用の面でも成果を残すことができた。							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たに寄託を受けた文化財は平常展での活用が見込まれるものであり、寄贈・寄託の積極的な活用するという中期計画に沿った実績を上げることができた。また、新規寄託品の件数からみても中期計画は順調に進んでいる。今後もこれまで通り文化庁や地元教育委員会等多方面と連携し、新規寄託の増加と継続的寄託に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等									
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。										
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 富坂 賢					
【実績・成果】										
寄贈										
<ul style="list-style-type: none"> ・22件の新規寄贈があった。内訳：絵画9件、書跡1件、彫刻1件、金工3件、刀剣2件、陶磁1件、考古3件、歴史資料2件 ・書跡分野では1件の寄贈があった。盤珪永琢は、長崎に渡来した黄檗僧・道者超元に悟りを認められ、以後「不生禅」を提唱した近世前期の名僧。本作品は、盤珪永琢の禅を象徴する「不生」の2字を自筆で横に大書したものである。 ・彫刻分野では1件の寄贈があった。「仏頭」は北魏時代5-6世紀、山西省雲岡石窟将来とされる、砂岩製の浮彫である。長らく寄託品として陳列に活用していたが、今回寄贈を受けた。 ・考古分野では3件の寄贈があった。「大分県丹生川遺跡出土品」は弥生時代前期から中期にかけての石製品などである。「土馬」は「都城型」に分類される手づくねの土製品で、律令祭祀で用いられた。 ・歴史資料分野では2件の寄贈があった。「両替天秤・分銅」は、天秤竿、天秤皿、分銅24個からなる。いずれも江戸幕府公認の座元で鋳されたことが刻印から判明する。 										
寄託										
<ul style="list-style-type: none"> ・44件の新規寄託があった。内訳：絵画3件、書跡4件、彫刻1件、金工3件、刀剣5件、考古26件、歴史資料2件。 ・絵画分野では3件の寄託があった。「十一面観音像」は密教尊像の1つで、鎌倉時代13-14世紀の作例ながら、古密教の様式を伝える貴重な作品。福岡・千眼寺からは「十八羅漢図巻」「渡海羅漢図巻」の黄檗絵画の寄託を受けた。 ・金工分野では3件の寄託があった。長崎・聖福寺からは、和韓中の混交を様式に示す「銅鐘」の寄託を受けた。 ・考古分野では26件の寄託があった。当館近在の宝満山遺跡群から採取された瓦、土製品、陶器類などからなる。 ・歴史資料では2件の寄託があった。「酒井田家文書」は有田・酒井田祐右衛門家に伝来した古文書群73点からなる。慶長20年、博多・承天寺住職から初代祐右衛門の父円西に宛てた書状は、すでに酒井田家が陶業に関与していたことが判明する等、九州陶磁史の第一級の史料群である。 ・多分野にまたがる「筑前國一之宮住吉神社奉納品」の寄託を受けた。 										
										
					仏頭		酒井田家文書			
【補足事項】										
福岡市美術館の耐震補強改修を受け、古美術品を中心とした約4,000点を当館第8収蔵庫に、28年12月から30年1月まで保管、併せて文化交流展示において713点を活用することとなった。(協約書を取り交わし、受入形態は借用) また、宮内庁正倉院事務所から、明治期に正倉で実際に使用されていた陳列棚2基(伊藤博文が英国に発注し製作させたもの)と代々正倉の屋根を葺いた瓦13点を借用した。陳列棚は、バックヤードツアー参加者などが廊下側から収蔵庫内が見える小窓を通して観られる位置に配置した。										
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	
新規寄贈品件数		22件	-	-		3	4	5	8	
寄託品件数		905件	-	-		1,238	1,081	795	885	
うち新規寄託品件数		44件	-	-		30	15	12	97	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 文化交流を軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。特に館蔵品の少ない彫刻分野の優品の寄贈を受け入れることができた。						
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。										
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 文化交流を軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。増数は寄託者・寄贈者とのこれまでの地道な信頼関係の賜物である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 (東京国立博物館) ア 収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行う。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 救仁郷 秀明					
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行った。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行った。 (東京国立博物館) ア 収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行った。								
【補足事項】 (4館共通) ア 本館改修工事に伴って列品を移動・収納するための新規収蔵庫棟の基本設計、基本仕様を検討した。 (東京国立博物館) ア 一時預品の調査確認作業(リスト作成、画像撮影)が捗り、成果を文化財情報システム(業務システム)に反映すべく検討を重ねた。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	180%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 新規収蔵庫棟の基本設計・基本仕様の検討、寄託品の所在確認作業、収蔵品及び一時預品の情報調査を実施し、順調に成果を上げている。							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。特に、収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を滞りなく進めることができた。今後は、新規収蔵庫棟の実施設計、作品移動の計画立案も進める必要がある。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (東京国立博物館) イ 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。 ウ 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 エ 収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。 オ ガラス乾板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について検討する。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	博物館情報課長 田良島哲 列品管理課長 救仁郷秀明					
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新した。 (東京国立博物館) イ 歴史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進め、134件を編入した。 ウ 「列品管理プロトタイプデータベース」について、一時預かり品に関する手続きを支援する機能を検討し、試験的に実装した。また収蔵品データの外部への公開に向けた機能改善を行った。 エ 収蔵する和古書・漢籍について20,224件、洋古書について5,110件のデジタル撮影を行なった。 オ 未整理のブローニーフィルムのデジタル化に向けて、データ整備を実施した。未整理フィルムにマイクロフィルムを数カット毎に切断してスリーブに保管したものを確認し、デジタル化の方法を検討した。								
【補足事項】 (東京国立博物館) ウ 「列品管理プロトタイプデータベース」内の収蔵品データの公開に向けて、収蔵品の情報調査の成果を反映するとともに、当館ウェブサイト上に公開している総合文化展の展示作品リストとのデータの異同を効率的に確認するためのソフトウェアを開発した。 エ 和古書・洋古書及び漢籍のデジタル画像を公開する「東京国立博物館デジタルライブラリー」において、612件1,021冊分の画像を公開している。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	25,334件	24,471件	B		8,964	22,095	36,811	30,013
和古書・漢籍	20,224件	-	-		7,083	18,357	25,991	13,924
洋古書	5,110件	-	-		1,881	3,738	10,820	16,089
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 順調に成果をあげている。デジタル撮影した画像の登録、及び「列品管理プロトタイプデータベース」におけるデータの更新により、収蔵品に関するデータ整備を推進することができ、また和古書・洋古書・漢籍のデジタル撮影を行うなど、年度計画どおりに事業を実施することができた。また、旧資料部関係品のうち、歴史資料の編入が28年度で完了した。							
【中期計画記載事項】 (略)収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。収蔵品に関する画像及びデータベース上のデータ整備に推進により、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。和古書・洋古書・漢籍についても前中期目標の期間の実績以上とすることができた。今後もデータ整備を推進して博物館における情報公開を充実させたい。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) ア・平成知新館収蔵庫内の収蔵スペースを確保するため、29年度設置予定の試作棚の製作を外部に依頼し、収蔵施設の充実、改善に向けた検討を行った。製作者と改良点については協議・対応済みで、完成した試作棚は、29年度に考古の収蔵庫に設置予定であり、29年度以降順次、各分野の収蔵庫に応じた収蔵棚設置を検討・設置し、収蔵スペースの確保を図っていく予定である。 ・収蔵品・寄託品の適切な管理のために「環境モニタリングシステム」を活用し、平成知新館の温室度環境の維持・改善に役立てた。 イ 毎年度2回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。 また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。								
【補足事項】  (収蔵庫試作棚：上部2段が新しく設置する部分)								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	100%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵スペース確保のために、既存の収蔵棚の上部に新たに棚を設けた収蔵棚の試作品を製作した。完成した収蔵棚を考古の収蔵庫に設置する段階までに至った。							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。収蔵スペース確保のために、外注で試作棚を製作し、実際の収蔵庫に設置出来る状況に仕上げた。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2								
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一						
【実績・成果】 (4館共通) ウ・収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を5,710件(カット)行った。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(28年度登録件数:23,066件) (京都国立博物館) ア・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,820件実施した。 ・フィルム用スキャナを継続して運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、28年度は4,493枚デジタル化を行った。 ・継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、28年度は107リール(57,252コマ)のデジタル化を行った。 ・継続してガラス乾板のデジタル化を行っており、28年度は1,220枚デジタル化を行った。 ・購入、寄贈、寄託等に伴い、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し展示・調査研究の業務に役立てた									
【補足事項】 (4館共通) ウ・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」(10月15日～11月27日)、特別展覧会「開館120周年記念特別展覧会 海北友松」(29年4月11日～5月21日)を対象として進めた。 ・特集陳列について、ポスター・チラシ・リーフレット作成のため、作品の撮影を行った。 ・松井宏次氏寄贈作品(松井コレクション)・貝塚廣海惣太郎家コレクション等を含めた収蔵品の撮影を行った。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア・27年度に引き続き、文化財情報システムの改修を行い、登録業務の改善を図った。 (京都国立博物館) ア・引き続き外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、費用削減を図りながら、フィルムのデジタル化を促進した。 ・館内では実施不可な8×10、5×7フィルム、及び所蔵枚数の多い6×12フィルムのスキャニング業務に係わる一般競争入札を行った。 総合評価落札方式を採用したことにより費用削減とともにスキャニングデータの品質保全を図ることができた。 ・ガラス乾板は、京都造形芸術大学の協力の下、保存整理作業も続けて行っており、28年度は四切サイズ中心に状態調査を行い、スキャニング作業は27年度から引き続き四切サイズを中心に行った。 ・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)		5,820件	3,816件	A		2,732	2,682	5,536	5,966
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 新規撮影5710件及び文化財システムへの登録を23066件は滞りなく実施することができた。大判フィルムスキャニングの外注委託において、総合評価落札方式の入札を採用したことにより、費用削減とともに館内では作業できなかった大判フィルムデジタル化に着手することができ、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させることができた。							
【中期計画記載事項】 (略)収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 大判フィルムスキャニングの外注委託において、一般競争入札(総合評価落札方式)により費用削減を図り、フィルムのデジタル化を積極的に行うことで、管理に必要なデータを整備し、順調に事業を実施できた。今後は8×10、5×7フィルムを中心にデジタル化を進めていきたい。							




収蔵品の撮影風景


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤 栄					
【実績・成果】 (4館共通) ア ・梱包用資材置き場を収蔵庫（資料庫C）として転用した。 ・写真事務員の執務室の移転に伴い、同室を一時保管庫として転用すべく内装、照明等電気設備、空調設備、ドアのセキュリティ強化等の改修を行った。 イ 寄託品の所在確認作業に先立ち、館蔵品及び寄託品件数の見直しを実施した。過去の所在確認作業実績が当館のデータベースに正確に反映されているか、過去の確認記録との突き合わせを実施した。								
【補足事項】  写真事務室を改修し、一時保管庫として転用								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	99%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 館内スペースや事務室の配置見直しにより一時保管庫を確保した。これにより特別展等での作品保管場所が増加し、既存の収蔵庫を兼用するリスクを減らすことができた。 また、デジタル撮影件数については27年度と同じく4千を超える件数となり、順調にデータを蓄積できている。							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の増床が今後見込めない中、27年度からの検討に基づき小スペースではあるが、収蔵スペースを増加することができ、中期計画は順調に進んでいる。29年度以降も収蔵品等の定期的現状確認により管理の徹底を図る。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 イ 画像データベースの個別データを追加更新する。 ウ 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。 エ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施する。								
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子					
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進した。 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新した。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。 イ 画像データベースの個別データを追加更新した(4,936件)。 ウ 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した。 エ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(3,081件)。								
【補足事項】 館蔵のカラー原板以外にも、ガラス乾板の整理作業を継続して実施している。28年度はガラス乾板のデジタル化、リストの作成とともに、クリーニングと保存箱への封入作業の一部に対して行った。これらは館の歴史資料として、初期の文化財写真の実例として、大変貴重なものである。今後とも、保存環境に配慮した整備と公開を見据えたデジタル化に向けて尽力していきたい。								
館蔵ガラス乾板 獅子窟寺 薬師如来坐像								
								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)	3,081件	5,373件	D		4,924	7,615	5,154	3,875
【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、既存カラーポジフィルムのデジタル化を数値として従来からあげている。既存カラーポジフィルムのデジタル化は28年度で概ね終了の見込みであるため、実績の数値は例年より少なくなっている。							
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、既存カラーポジフィルムのデジタル化を数値として従来からあげているが、既存カラーポジフィルムのデジタル化は28年度で概ね終了の見込みであり、当初の目標は達成されている。今後のデジタル化の指標としては、デジタル撮影の件数等をあげていくのがふさわしいかと思われる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 富坂 賢			
【実績・成果】 ア 収蔵庫に入りきらず館内の一般倉庫(3階大倉庫247㎡、4階倉庫176.7㎡、4階倉庫116.4㎡)に分置している資料に「建築模型」(東京国立博物館・奈良国立博物館・国立歴史民俗博物館からの長期管理換)と「教育参考資料」(準列品扱い)があったが、「建築模型」については金沢工業大学を新たな貸与先とする計画をまとめ、全量を送った。 これに伴い3階、4階の各倉庫を改修し、「教育参考資料」を集中的に保管する場所を整備した。引き続き「建築模型」を保管していた当館第5及び第7収蔵庫の整備を29年度に実施する計画を立てた。 また福岡市美術館の耐震補強改修を受け、古美術品を中心とした約4000点を、28年12月から30年1月まで保管、併せて文化交流展示において713点を活用することとなったことを受けて、当館第8収蔵庫を専用保管庫とする作業を行った。(具体的な作業は1122Dを参照) イ 年2回行う寄託品の継続手続きに合わせて、所在確認作業を実施した。								
【補足事項】 ア								
								
建築模型を当館から10トントラックに積み込み搬出している様子				整備後の4階倉庫の様子				
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	80%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 「建築模型」ならびに「教育参考資料」を移動することで新たに収納スペースを確保し、新たに借用した福岡市美術館の作品の受入、「教育参考資料」の集中的保管を達成した。							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 開館10年を経過して蓄積された収蔵品を整理して新たに収蔵環境をつくり出し、今後の収蔵品の増加に対応しても収蔵設備の充実、改善を図るための基盤が整備できた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 (九州国立博物館) ア 文化財情報(収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、画像データベース)の一元的管理が可能な業務システム構築を図る。								
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 富坂 賢			
【実績・成果】 (4館共通) ウ 専任撮影技師による1,517件(カット)の収蔵品・出品作品等の新規撮影および関連データを整備した。 (九州国立博物館) ア 列品・寄託品・借用品・画像などの各データベースを一元管理するシステムを継続的に運用し、より効率的な管理のためのシステムの改修・整備を進めた。								
【補足事項】 (4館共通) ウ								
								
①特別展のための撮影 (九州国立博物館)			②新規導入の撮影台			③撮影台を利用した撮影		
ア 28年度は業務システムの改修により基盤を整えつつ、これまで個々で管理されていたデジタルデータを統合し、業務システムで参照可能な状態にするための整備・登録作業も進めた。これにより、有形文化財に関する情報へのアクセシビリティを飛躍的に向上させることができた。引き続き、基盤強化と情報統合の両面の作業を進め、博物館活動を支援する体制の構築を目指す。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)	(完了)		-					
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規のデジタル撮影を例年と同等に達成した。また「九州国立博物館文化財情報システム」を構築、運用を開始した。さらに、これまで蓄積された画像データに、新規撮影デジタルデータを加え、当館ウェブサイト「収蔵品ギャラリー」を一新した。							
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等の情報を集中的に管理するシステムの基盤整備を達成し、今後展示、調査研究に活用していく方が検討できることとなった。また、外部に文化財情報を発信していく基盤も整った。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (東京国立博物館) ア 本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行なう。 イ 収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 ウ 収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行なう。 エ 収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。 オ 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。								
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長	高橋裕次				
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵庫など316地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、害虫防除のため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 イ 本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として保存カルテを作成し、蓄積した。 (東京国立博物館) ア 本館収蔵庫温湿度環境を収集し、それらの解析を行い、収蔵環境の特性把握と収蔵環境レベルの分類を行なった。 イ 収蔵庫及び展示室など308地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など11地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。 ウ 日本考古の資料に対して、安全性を高めた展示支持具を新たに設計した。 エ 収蔵庫、展示室など249ヵ所の温湿度、及び11地点の空気汚染物質濃度に関し年次報告書を整備した。 オ 収蔵品の貸与又は作品の借用に伴う輸送中に生じた振動及び衝撃に関する計測を実施し、40の計測データを収集した。								
								
考古資料の展示支持具設計								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 生物生息、温湿度、輸送中の振動、空気環境に関する調査と検証を実施し、本館、東洋館、平成館、資料館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館の4つの異なる建築物に関して、文化財を保存するための環境の整備またはそのための情報蓄積に役立った。							
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を進めた。次年度は本館収蔵庫等への予算獲得を目指してこれら業務を継続したい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (京都国立博物館) ア 平成知新館の長期的な保存環境の維持管理に関わる調査研究を行う。 イ 明治古都館・東収蔵庫の改修計画に役立てるため、各種環境データの収集などを行う。 ウ フィルム保管庫、資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫 (KICK) も含めた、包括的な環境管理体制の構築を目指し、各種環境データの計測を継続する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一						
【実績・成果】 (4館共通) ア 館内外の関係者との連携を強化し、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図った。 イ 収蔵品の保存カルテを159件作成した。 (京都国立博物館) ア 平成知新館では、毛髪式温湿度計と「環境モニタリングシステム」を併用した継続的な温湿度調査、網羅的な昆虫類生息調査、収蔵庫内等の真菌類調査、パッシブインジケータ・検知管類による空気環境調査を行った。 イ 使用が限定的となった明治古都館展示室・東収蔵庫についても、年間を通して温湿度調査を継続した。明治古都館収蔵庫は当面収蔵庫と使用が続くため、毛髪式温湿度計とデータロガーを併用した継続的な温湿度調査、昆虫類生息調査、真菌類調査を実施した。また、北収蔵庫は東収蔵庫の減築工事のため29年度の使用が制限されるため、外部委託による精密清掃を実施した。 ウ 前記の調査に基づいて、施設それぞれの特性・空調能力に応じ、季節にあわせた環境管理を行うことができた。文化財修理所では改修工事で清浄となった環境が維持されるよう入居工房と協力して虫菌害対策に取り組み、外部収蔵庫 (KICK) では現地管理者と空調管理の報告体制を整えるなど、関係者との連携も強化することができた。燻蒸庫故障に伴い、主に寄贈品を対象とした燻蒸は被覆燻蒸で実施し、エキヒュームSによる薬剤被覆燻蒸と、一部には低酸素殺虫処理を実施した。									
【補足事項】  低酸素殺虫処理作業風景									
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		貸与に伴う点検時を主体として行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、159件作成した。 適切な展示・保存環境の保持のため、機器を使用したモニタリングや委託調査のみではなく、調査結果の回覧、毛髪計の用紙交換、目視調査、設備点検などをあわせて実施することによって、包括的な環境管理体制の構築につなげることができた。保存等に関する調査研究の収集されたさまざまなモニタリングデータを今後どのように解析・蓄積するかが課題である。							
【中期計画記載事項】		【判定根拠、課題と対応】							
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。		年間を通して、継続的に温室度や空気環境調査を行った。 文化財防災ネットワークにも関連して、災害時の調査研究も進めているが、28年度は専門家の講義の聴講や、他機関との情報交換・意見交換等に注力したため、29年度以降は実践的な調査・研究につなげたい。							
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B									

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																									
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存																									
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (奈良国立博物館) ア 展示施設及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。 イ 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 ウ 収蔵・展示施設の適正な温湿度管理の徹底を図る。																										
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 鳥越俊行																							
【実績・成果】 (4館共通) ア 文化財害虫生息状況を把握するため、館内の文化財の保管および展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置した。約2ヵ月に1度交換し、調査結果の蓄積並びに分析を行うことでIPMを推進している。また、文化財害虫の生息が危惧される古い展示ケース等に防虫シートを設置するとともに、展示施設の周囲への害虫忌避剤を散布した。掃除と防塵マット交換を定期的実施し、収蔵庫周辺や調査室内等の衛生環境保持に努めている。 イ 保存修理指導で作製した文化財の写真添付が可能な作製フォームを用いて、96件の保存カルテを作成・保管した。 (奈良国立博物館) ア コンピューターの更新等を進め、データ管理システムの充実を図った。また、無線LANによるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。展覧会ごとに無線式温湿度センサーを設置し、継続した温湿度データの蓄積を図った。展示終了後には、データの分析を行い今後の参考資料とした。 イ 継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月8日に実施した。また、展示ケースのシール部分の交換等を行い気密性の向上を図った。 ウ 西新館南側のエアカーテンを追加設置し、正倉院展での温湿度負荷の低減を図った。なら仏像館では、改修に伴い高気密展示ケースを導入し、展示環境が向上した。また、無線LAN温湿度管理システムによる展示室温湿度の24時間リアルタイムモニタリングを進め、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。																										
【補足事項】 (4館共通) ア 展示室、収蔵庫や文化財保存修理所等の館内150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2ヵ月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された虫の同定は外部業者に委託し、文化財害虫の種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行った。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などIPMの実践につなげた。 (奈良国立博物館) ア 機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者による展示ケース内の急激な温湿度環境変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。																										
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>28年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評価</td> <td>経年変化</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>									【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27																		
-	-	-	-	-	-	-	-	-																		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 27年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。特に28年度は、西新館南側のエアカーテンの追加設置による温湿度負荷の低減、なら仏像館での高気密展示ケースの導入により展示環境の向上を図った。																							
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。																										
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画は順調に進んでいる。29年度以降も展示・保存環境の把握に努め適宜の対応により文化財の維持・管理に努める。																							





トラップの設置の様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存							
【年度計画】								
(4館共通)								
ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。								
イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。								
(九州国立博物館)								
ア 館内の温湿度・空気質・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。								
イ 全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	環境保全室長 木川りか					
【実績・成果】								
(4館共通)								
ア 収蔵品の生物被害を防止するため、I P Mの徹底を図った。文化財搬入に際し、I P Mメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。								
イ 収蔵品及び修理完了資料を中心に保存カルテを81件作成した。								
(九州国立博物館)								
ア 無線温湿度モニタリング装置を活用して展示室・収蔵庫の温度・湿度データを蓄積した。収蔵庫、展示室、諸室等館内約430ヵ所にトラップを設置し、2週間あるいは1ヵ月に1度回収し、文化財害虫の早期発見に努め、保存環境の改善を行った。								
イ 館内の虫の繁殖原因となり得る、ダンボール類、薄葉紙、綿布団など文化財を取り巻く部材をなるべく排除し、防虫対策を徹底した。								
展示ケース内で安全に温度・湿度を測定するため、データロガーを入れるケースを作成し、正確な温度・湿度計測ができるよう工夫した。								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> 温湿度データの管理、解析によって28年度も展示、収蔵環境をより安定させることができた。今後も安定を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。 収蔵庫、展示室、諸室等の約430ヵ所に常時粘着トラップを設置し、年間を通して定期的モニタリングを実施した。害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。 地元のNPO法人ミュージアム(I P Mサポートセンター)やボランティアとの連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や粘着トラップの観察には、28年度も引き続き両者の協力を得た。 生物モニタリングを継続して進め、それらのデータを活用することによって害虫対策に生かしている。28年度は、展示室周辺の徹底清掃、文化交流展示室の床下の徹底清掃、収蔵庫およびその周辺諸室の徹底清掃を実施した。 								
								
					IPMの一環としての 展示室床下の徹底清掃の様子			
【定量的評価】項目								
28年度実績		目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
殺虫殺菌処置		58件	-		-	6	10	9
保存カルテ作成件数		81件	-	-	91	94	75	91
【年度計画に対する総合評価】			【判定根拠、課題と対応】					
評価：B			温湿度計測データを活用し、展示作品に合わせて適切な展示環境、収蔵環境の維持をすることができた。また、これまで積み上げてきたI P M関係の調査結果を利用して、床下の徹底清掃を計画的に実施することができた。					
【中期計画記載事項】								
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。								
【中期計画に対する評価】			【判定根拠、課題と対応】					
評価：B			収蔵・展示施設及び展示ケース内の温湿度計測を確実にし、また粘着トラップによる生息調査結果を活用し、環境整備を適切に行うことができ、中期計画を順調に実施できた。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に27年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組む。 イ 引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。 ウ 保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。								
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 高橋裕次					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 保存修復課に紙本などの修理技術者として2名、彫刻や工芸品など立体の修理技術者として1名、合計3名の修理技術アソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行なった。作品の劣化予防のために500件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから68件の本格修理を実施した。うち国宝2件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。また、28年度は国宝「埴輪 桂甲の武人」の修理に着手した(修理前調査開始)。 イ 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む305件の作品に関して修理仕様の検討を行ない、中長期修理計画策定を進めて、68件の本格修理を実施した。 ウ データベース構築のために、27年度に修理が完了した61件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書XVII』を刊行した。								
【補足事項】 ・国宝「医心方」(平安～江戸時代)独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を継続した。 ・国宝「国宝 埴輪掛甲武人」(土製 古墳時代・6世紀 群馬県太田市飯塚町出土)はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を開始した(29年3月着工、工期28箇月)。 ・①重文「放犢図」(元時代)、②「大燈籠」(明治時代)、③「河童形土偶」(縄文時代(中期)・前3000～前2000年)は飯田貞子氏からの寄附金により修理を開始し、①③は27年度に完了、②は28年度に完了した。 ・文化財保存修復学主催2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える―展示技術と保存修復学」にて「展示手法に応じた修理」を発表した。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
修理件数(本格修理)	68件	-	-		95	93	77	86
修理のデータベース化件数	61件	-	-		83	84	86	90
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施し、厳しい経済的事情の中で、寄附金の活用等により、国宝2件、重要文化財4件を含む修理を実施し、当初の予定を大きく上回る内容の成果をあげた。また、関係資料のデータベース化も進めた。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究者と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、事前調査、対症修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。今後も、学芸担当、保存科学者、保存修復技術者の3者が常駐する日本でも数少ない博物館である特徴を生かし、作品を安全に活用できるようにするための保存修理を充実させていく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「大手鑑(八十葉)」に取り組む。 イ 中長期的修理計画の策定を検討する。 ウ 収蔵品修理資料のデータベース化の調査を実施する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 保存修理指導室長	宮川禎一 大原嘉豊				
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア ・重要文化財熊野懐紙附属品の応急修理を行い、劣化の予防に努めた。 ・28年度より4ヶ年計画で、重要文化財「大手鑑(八十葉)」の修理を開始した。 イ ・列品管理室の管掌下において館蔵品の修理事業は進められているが、保存修理指導室としては28年度修理着手された館蔵品において特に重要な作品の修理3件(仏涅槃図、重要文化財・維摩居士像、重要文化財・大手鑑)について、修理記録として4Kハンディカメラによる映像記録の保存に向け準備を行い、将来的な映像化に向けた対策を行った。 ・修理候補作品リストを作成し、緊急性や予算を勘案しつつ修理を行う用意をした。 ウ ・文化財保存修理所では、28年度は151件の新規修理文化財搬入がありデータベース化を行った。また、過去のデータに関して1,999回追加、更新を行った。 ・収蔵品修理資料のデータベース化の調査、修理報告書サーバの更新等各種整備を継続して実施した。								
【補足事項】 ア・緊急性の高い作品を優先に、14件の本格修理を行った。 (絵画4件、書跡2件、漆工1件、染織3件、考古4件)								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
修理件数(本格修理)	14件	-	-	変化	13	15	11	12
修理のデータベース化件数	151件	-	-		93	101	113	113
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 緊急度の高い作品から順に修理を行い、本格修理件数は27年度に対し、1件増、データベース化件数は38件増と、前年度を上回る成果を上げた。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 ・中期計画に記載された「計画的な修理」「基本設備の充実」は、ともに順調に進捗している。 ・伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、28年度から初めて修理記録に映像を含めた対策を講じたのは、特筆すべき点であると思慮する。 ・多分野にわたり、緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を行うことができた。 ・29年度は文化財保護基金の用途を決定し、修理対象の拡充、ならびに修理件数の増加に努めたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画・書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「神泉苑請雨経法道場図」等の修理に取り組む。 イ 中長期的修理計画を策定する。 ウ 修理資料のデータベース化を図る。 エ 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長	鳥越俊行				
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア 館蔵品本格修理7件のうち、新規4件、27年度からの継続事業3件を実施した。 内訳 絵画4件（うち神泉苑請雨経法道場図は本年度のみ、絹本著色山越阿弥陀図は3ヵ年継続事業の最終年度、重文 絹本著色明空法師像は2ヵ年継続事業の最終年度） 書跡2件（うち重文 法華経（色紙経）は3ヵ年継続事業の2年目） 考古1件 ・年度内に4件が完了。 イ 22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施している。 ウ 引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧」を掲載する。また、修理報告資料の整理を進めデータベース化に努めた。 エ 寄託所蔵者と協議を行い、寄託品3件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) ア 収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に、特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に新規で設置した。 ・寄託品修理は、出光文化福祉財団の助成による大阪・専稱寺所蔵 絹本著色弁才天十五童子像、朝日新聞文化財団の助成による兵庫・中山寺所蔵 髪繡種子十一面観音菩薩像の2件について新規着工した。出光文化福祉財団・京都府・木津川市助成による京都・海住山寺所蔵 絹本著色大威徳明王像は27年度から2ヵ年継続で修理を行っている。上記の3件は平成28年度末に修理が完了した。								
 募金箱の設置								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
修理件数（本格修理）	7件	-	-	変化	9	8	9	11
修理のデータベース化件数	62件	-	-		70	73	77	66
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 27年度から継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学技師と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 財団助成や募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当技師と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線透過撮影や蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。中期計画は順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (九州国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「東大寺等関係文書」等の修理に取り組む。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか					
【実績・成果】 館蔵品を中心に、展示計画や損傷の程度を勘案して緊急性の高い文化財21件(本格18件, 応急3件)の修理を実施した。 (九州国立博物館) ア 当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て、館蔵品、寄託品および借用品の状態調査を行うことができたため、効率的な調査、現実的な修理計画の策定、適切な処置を実施することができた。								
【補足事項】 ・館費による修理件数21件(本格18, 応急3)の内訳： 絵画5(本格4, 応急1)、書跡3(本格2, 応急1)、染織6(本格6)、歴史資料7(本格6, 応急1) ・重要文化財「東大寺等関係文書」(当館所蔵)について、28年度から2ヵ年継続事業として本格修理を開始した。紙継ぎや補修に用いられていた黄褐色の糊について赤外分光分析を行い、豆糊の使用を推定した。豆糊は水で膨潤しないため補修紙の除去は慎重に行う必要がある。当館文化財保存修復施設で修理が実施されたため、進行状況の頻繁な確認と協議を行うことができ、より良い修理に繋がっている。								
								
重文「東大寺等関係文書」の裏打紙除去作業 (蒸気を当て蒸らしながら少しずつ除去している)								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
修理件数(本格修理)	18件	-	-		20	17	23	22
修理のデータベース化件数	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て状態調査を行い、重要文化財「東大寺等関係文書」等、計画的に修理を実施することができた。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究者と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、機構内外の修復技術者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。							

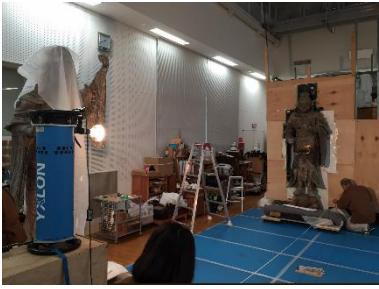
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 高橋裕次						
【実績・成果】 (4館共通) ア 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を9件 (B-3178医心方など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析 1055 件、2953 箇所 (G-40 色絵月梅図茶壺など)、X線透過撮影 225 件、313 カット (J-6478 陶棺など)、赤外線撮影 7 件 132 カット (A-1449 准胝仏母像など)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。									
【補足事項】									
									
図1. 蛍光エックス線分析の様子 (G-40)				図2. 修理前X線透過調査の様子					
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 X線CTスキャナーの導入により立体文化財の内部構造や状態の確認が出来るようになり、修理前調査や作品研究において精度の高い情報を用いて行うことができるようになった。また、作品の大きさや調査目的に応じて従来のX線透過撮影も並行して行うなど調査が充実した。一方で、X線CTなどの調査では直接判断が付かない材質の分析においては蛍光X線線分析や赤外線撮影などの基本的な調査分析も文化財の保存や修理、研究において価値のある調査であり、引き続き精度の向上とデータの活用方法の発展が期待できる。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の分野担当者、保存科学技師と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 立体から平面まで様々な文化財の保存状態確認のための科学的調査を修理技術者、各分野の研究者と共に実施し、修理の仕様策定、作品研究と展示における調査結果の活用などに結びつけることが、中期計画に従い順調に実施できた。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア X線CTスキャナを運用し、研究の進展を図り、より適切な修理方法を検討する。								
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長	高橋裕次				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア X線CTスキャナーシステム(3台)で館内外の文化財に対して109件(E-19998 浜松図真形釜など)318回撮影を行った。 大型垂直CT 撮影回数 141回 (E-19998 浜松図真形釜など撮影作品数 25) 大型水平CT 撮影回数 22回 (C-95 善財童子立像など撮影作品数 9) プレジジョンCT 撮影回数 155回 (C-1534 能面大天神など撮影作品数 75)								
○ 文化庁、国立科学博物館、陸前高田市博物館、東海大学、サントリー美術館、櫛野寺、岩手県立博物館、埼玉県立さきたま史跡の博物館、十日町市教育委員会など外部の作品の撮影を行い調査研究に協力した。								
【補足事項】								
								
図1. 展示への活用		図2. X線CTを用いた修理前構造調査の様子						
『MUSEUM』第664号 X線画像による古代中国封泥の研究(谷 豊信)、根津美術館紀要「此君」第8号、埼玉県立さきたま史跡の博物館紀要などに調査画像の提供を行った。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 館内の作品の研究調査や修理前調査だけではなく、国内外様々な文化財に対する研究にも寄与し、成果を上げている。当館の装置ではX線の出力や撮影範囲で対応できない文化財もあり、今後は装置の改良を行ってより多くの作品の撮影に寄与できるようにする。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 撮影回数や各種調査研究、修理への寄与は十分に行えていると考える。しかし、3次元プリンターを用いた輸送梱包技術への応用や展示に用いる支持具の開発までには行えておらず、今後、3次元プリンターの導入を行い、それらの目標を達成することが必要となる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																									
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理																									
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (京都国立博物館) ア 文化財材質分析システム等を調査研究のため活用を図る。																										
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一																							
【実績・成果】 (4館共通) ア 28年度修理開始の館蔵品の紙本文化財について、材料の分析を行い、文化財の材質が判明したことで修理方針の決定に役立てた。 イ 寄託品の修理に際し、X線調査を行い、文化財の材質が判明したことで修理指針に役立てることが出来た。 (京都国立博物館) ア ・研究職員の研究活動の一環として、文化財修理所各工房からの修理前後調査依頼（大和文華館蔵「蜀葵遊猫図」「萱草遊狗図」の蛍光X線分析等）、外部機関からの調査依頼（天津市歴史博物館等）を受け入れ、X線CT、透過X線、蛍光X線分析を中心に共同調査を行った。 ・X線漏えい検査等の分析機器の管理、データの保存や共有の方針などを検討し、文化財材質分析システムの整備を図った。																										
【補足事項】 (京都国立博物館) ア ・修理工房からの調査依頼 X線CT6件 透過X線4件、蛍光X線分析20件 ・外部機関からの調査依頼 X線CT3件 蛍光X線分析1件 ・天津市歴史博物館からの調査依頼で木造釈迦涅槃像（新知恩院蔵）のCT撮影を行い調査研究に役立てることが出来た。 ・特集陳列「丹後の仏教美術」に出品した地藏菩薩立像（金剛心院蔵）、特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」に出品した観音菩薩坐像（泉涌寺所蔵）のCT撮影を行い、調査研究に役立てることが出来た。																										
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>28年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評価</td> <td>経年変化</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>									【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27																		
-	-	-	-	-	-	-	-	-																		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 科学機器を用いた調査によって、色材の構成元素、木組みや納入品の詳細等が判明するなど、文化財修理、材質・構造研究に貢献できた。今後は、分析技術の向上や、調査結果から考察を深めるためにも、標準サンプルを用いた基礎研究についても行う必要がある。																							
【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究所と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。																										
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 機構の保存科学研究所と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、緊急性の高い収蔵品等から28年度については順次、計画的に修理を行うことができた。ただし今後について、修理に伴う共同調査の成果は、現状、所有者・修理者・文化庁に委ねられており、当館の調査実績として公表しにくい側面がある。共同調査における成果の共有や発信について協議が必要である。																							




X線CT調査風景

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (奈良国立博物館) ア 木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部保存修理指導室			事業責任者	室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 (4館共通) ア 当館修理所内の工房である文化財保存と共同で修理文化財の調査を行い、修理方針の検討資料とした。 イ 館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用いて、当館研究員と工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析等を実施した。 ・ 絵画作品の修理に際し、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。(実施計8回) ・ 修理方針に反映させるため、絵画表面の顔料への蛍光X線分析を実施した。(実施計3回) ・ 工芸や彫刻作品の修理について、内部構造を調査するためX線透過撮影を実施した。(実施計5回) (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、京都大学生存圏研究所と連携し樹種同定調査を行った。同定結果を修理に活用している。(実施計4件) イ 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料の修理について、X線撮影等による構造調査などを行い、製作技術の解明や修理方針の検討資料とした。(実施計2回)									
【補足事項】 (4館共通) イ 当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置など)を積極的に利用し活用を図った。									
									
工房内でのX線透過撮影の様子									
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 修理所内で彫刻作品の修理の途中にX線透過撮影を実施し、適切な修理に役立った。また、紺紙金字経の文字部分を元素分析し、適切な修理の基礎資料とした。このほか京都大学と連携して樹種同定調査を行うなど、20を超える回数を随時実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学的研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果を踏まえ計画的な修理を実施した。今年度は、基本設備を充実させるため、X線CT装置の導入に向けた準備を進めた。								

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 (4館共通) ア 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (九州国立博物館) ア 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 イ 修理資料のデータベース化の調査を実施する。								
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 木川りか			
【実績・成果】 (4館共通) ア 重文「対馬宗家関係資料」(当館所蔵)等の紙本文化財の繊維同定を行い、文化財ごとに適切な補修紙を作成することができた。 イ 重文「東大寺等関係文書」(当館所蔵)について、裏打ち等に用いられた黄褐色の糊の赤外分光分析を行い、豆糊の使用を推定することができた。 (九州国立博物館) ア 館外所蔵者負担による九州等所在文化財の修理59件のために修復施設を積極的に活用した。館費修理21件と合わせて80件の修理を実施した。この中には熊本地震により被災した熊本県立美術館所蔵・寄託文化財の修理も含まれている。安全な環境のもと修理事業を実施できる施設は関西以西では当館以外になく、当館文化財保存修復施設の立地と環境を最大限生かすことができた。 イ 修理報告書および修理経過を示す画像データを整理し、データベース化に備えた。								
【補足事項】 ・修復施設1・2では、国宝修理装演師連盟が館費修理品9件の他、重文「田能村竹田関係資料」(大分市美術館所蔵)など、合計23件の修理を実施した。 ・修復施設3では、修理工房宰匠が館費修理品9件の他、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類(那覇市所蔵)など、合計40件の修理を実行した。 ・修復施設4では、美術院が「聖観音菩薩立像」(鹿児島・大慈寺所蔵)など、合計6件の修理を実行した。 ・修復施設5では、芸匠が重文「広田遺跡出土品」(鹿児島・黎明館所蔵)など合計4件の修理を実施した。 ・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」(文化庁所蔵)など、合計7件の修理を実施した。								
 <p>久留米市指定「楊柳観音図」(梅林寺)の修理監督風景</p>								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 修復施設を九州等所在文化財80件の修理に活用した他、重文「東大寺等関係文書」に使用された接着剤の科学分析を行い修理方針を検討するなど、伝統的な修理技術に科学的な保存技術を取り入れた修理を実施することができた。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 当館研究員と修復施設を使用する5社が連携して所蔵品の状態調査を行い、適切な修理計画を策定することができた。修理中には紙繊維の同定や接着剤の分析等科学調査も随時行い、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。28年度後半からは、熊本地震による被災文化財の修理拠点としても、修復施設を積極的に活用した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営								
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (京都国立博物館) ア 文化財保存修理所の設備等の改修について国と協力して検討を行う。 イ 文化財保存修理所及び仮工房等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 保存修理指導室長 大原嘉豊						
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所燻蒸庫の老朽化による缶体破損に対して撤去を行った。 (京都国立博物館) ア 施設整備費により燻蒸設備の新設を行う。新設工事の設計中。 イ 文化財保存修理所燻蒸庫の老朽化による缶体破損に対して既存燻蒸設備の撤去措置を行い、新設備の導入に向けた準備を行った。									
【補足事項】									
									
燻蒸庫 撤去前					燻蒸庫 撤去後				
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財修理所において、文化財の適切な保存修理環境を維持するため、燻蒸設備更新を予定しており、前段階の既存燻蒸設備の撤去を完了した。								
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実に図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れ、災害により修繕を必要とする文化財の修理環境改善の一つとして次期に導入する燻蒸設備の検討を実施した。								

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営							
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 鳥越俊行					
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所の窓枠のゴム等が劣化しつつあるため、点検を実施し必要に応じて交換を進めた。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所運営委員会を5月17日に開催し、文化財保存修理所の円滑な運用に努めた。また、学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との文化財保存修理所協議会を開催し、1回目は9月8日に、2回目は2月21日に開催した。各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を4回実施した。								
【補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・12月23日から29年1月15日まで、当館西新館北第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、27年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示(13件)することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらおう機会とした。 ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。 ・29年1月12日に文化財保存修理所一般公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらおう機会とした。 								
								
修理展の様子								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 運営委員会及び所内3工房代表者による協議会を開催し、修理実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。							
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、文化財被災時に修理技術者と連携できるよう随時意見交換を行った。意見交換や調査を行い、その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画は順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営								
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (九州国立博物館) ア 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の適切な保存・積極的活用を図る。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長	木川りか					
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア ・当館保存修復施設2の空調改善の検討を行い、空気が循環し易いよう給気拡散シートを設置した。 ・当館保存修復施設1の中二階について、温室度改善の検討を行い、空調センサーを増設した。 (九州国立博物館) ア ・保存修復施設にて当館所蔵品7件の本格修理を計画通り実施することができた。 ・保存修復諸室を活用し当館所蔵品及び寄託品22点の構造調査を行い、その結果を保存管理に役立てた。									
【補足事項】 ・保存修復施設2は天井高が約7mあり、安定した空気環境を作るためには給気の風量を強くして空気を循環させる必要があった。しかし、古文書等紙文化財の修理では、風量が強いと紙が揺れてしまい修復作業が困難となるため、風量を弱くしていた。結果的に、この部屋では空気が循環せず、不安定な空気環境となっていた。28年度はその対策を検討し、高さ約3mの位置に給気拡散シートを張ることにより、強い風量でも、紙文化財に直接風が当たらなくなり、空気環境を改善することができた。									
									
給気拡散シート									
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画は順調に成果をあげている。空気循環や空調制御を工夫するなど施設設備の改修等を行うことによって、文化財だけでなく施設利用者にとってもよりよい環境で修理を実施できるようになった。								
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対し順調に成果をあげることができた。日常的に検討を行い、安全な施設、環境で修理を実施することができた。施設の改修によって使用環境が改善された。								